

安全データシート (SDS)

1. 化学品及び会社情報

化学品の名称
供給者の会社名称, 住所及び電話番号

レナガス カラーキッド

【会社名】

株式会社ヤマチコーポレーション

【住所】

北海道札幌市北1条西10丁目1-17

【電話番号】

011-261-9911

供給者のファクシミリ番号又は
電子メールアドレス

【FAX番号】

011-261-9922

緊急連絡電話番号
推奨用途

011-261-9911

建築用仕上塗材(着色剤)

2. 危険有害性の要約

化学品のGHS分類

【健康に対する有害性】

皮膚腐食性/刺激性

区分2

眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性

区分1

発がん性

区分2

特定標的臓器毒性(単回ばく露)

区分2

(血液、中枢神経系)

特定標的臓器・全身毒性(反復ばく露)

区分1

(呼吸器、腎臓)

区分2

(血液、中枢神経系)

記載のないものは「分類できない」または「区分に該当しない」

GHSラベル要素

絵表示又はシンボル



注意喚起語

危険有害性情報

危険

皮膚刺激

重篤な目の損傷

発がんのおそれの疑い

血液、中枢神経系の障害のおそれ

長期にわたる、又は反復ばく露による呼吸器、腎臓の障害

長期にわたる、又は反復ばく露による血液、中枢神経系の障害のおそれ

注意書き

【安全対策】

使用前に取扱説明書を入手すること

全ての安全注意を読み理解するまで取り扱わないこと。

粉じん/煙/ガス/ミスト/蒸気/スプレーを吸入しないこと。

取扱い後はうがいをし、よく手を洗うこと。

この製品を使用するときに、飲食又は喫煙をしないこと。

環境への放出を避けること

保護手袋/保護衣/保護眼鏡/保護面を着用すること。

【応急措置】

皮膚に付着した場合：多量の水と石鹸で洗うこと。

眼に入った場合、水で数分間注意深く洗うこと。次にコンタクトレンズを

着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。

ばく露又はその懸念がある場合、医師に連絡すること。

皮膚刺激または発しん(疹)が生じた場合：医師の診断/手当てを受けること

眼の刺激が続く場合：医師の診断を受けること

漏出物を回収すること

【保管】

施錠して保管すること。

【廃棄】

内容物や容器を、都道府県条例および市町村の規則に従って廃棄すること。

GHS分類に関係しない又はGHSで扱われない他の危険有害性

知見無し

3. 組成及び成分情報

化学物質・混合物の区別
一般名

混合物
顔料及び有機質添加剤の配合物

成分名	成分及び濃度又は濃度範囲 含有量(%)	官報公示整理番号		CAS番号
顔料				
酸化チタン		1-558		13463-67-7
酸化鉄	<50	1-357		1309-37-1
カーボンブラック		5-3328		1333-86-4
ピグメントブルー		5-3299		147-14-8
有機質添加剤(増粘剤、防腐剤、分散剤)	<10	非開示		非開示
水	40.0~90.0	-		7732-18-5

その他

上記構成材料には、ユリア樹脂、メラミン樹脂、フェノール樹脂、レゾルシノール樹脂およびホルムアルデヒド系防腐剤のいずれも使用していません。
アスベスト(石綿)は一切使用していません。

4. 応急措置

吸入した場合

直ちに空気の新鮮な場所に移し、水で口、のど、鼻などをよく洗うこと。
気分が悪い時は、医師の手当て、診断を受けること。

皮膚に付着した場合

多量の水か微温水を流しながら、石鹸を使ってよく洗うこと。
皮膚刺激または発疹が生じた場合は、医師の診断や手当てを受けること。
汚染された衣類を脱ぎ、再使用する場合には洗濯をすること。

眼に入った場合

直ちに流水で数分間注意深く洗うこと。
次にコンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。
その後も15分以上、洗眼を続けること。
眼の刺激が続く場合は、医師の診断や手当てを受けること。

飲み込んだ場合

直ちに水で口をすすぐこと。
気分が悪い時は、医師に連絡し、診断や手当てを受けること。

急性症状及び遅発性症状の最も重要な
徴候症状

知見なし。

応急措置をする者の保護に必要な
注意事項

救助者は状況に応じて適切な保護具を着用する。

医師に対する特別な注意事項

知見なし。

5. 火災時の措置

適切な消火剤

多量の水、粉末消火剤、泡消火剤、二酸化炭素

使ってはならない消火剤

知見無し。

火災時の特有の危険有害性

製品自体は不燃材であるが、包装材料は可燃物である。

特有の消火方法

大量の水、または一般的な粉末消火剤等を用いて消火する。
消火の放水等により、製品が河川や下水に流出しないように適切な措置を行う。

消火活動を行う者の特別な保護具
及び予防措置

消火作業の際は必ず呼吸器用保護具のほか適切な保護具を着用する。

6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項、
保護具及び緊急時措置

吸い込んだり、眼、皮膚に直接触れたりしないように適切な保護具を着用する。

環境に対する注意事項

周辺への拡散を防止する。
漏出した製品が河川等に流出し、環境への影響を起さないように十分注意する。

封じ込め及び浄化の方法及び機材

飛散したものは、掃除機、スコップ、箒などで回収し密閉できる空容器に回収する。

二次災害の防止策

回収した漏出物は「廃棄上の注意」に従い廃棄処理をする。

7. 取扱い及び保管上の注意

取扱い

【技術的対策】

吸い込んだり、眼、皮膚に直接触れないように適切な保護具を着用する。
火気を近づけない。
水に濡らさない。

【安全取扱注意事項】

健康上適切な保護具を着用する。

【接触回避】

局所換気装置を設置する。適切な保護具を着用する。

【衛生対策】

取扱い後は十分手洗い、うがいを実施する。

保管

【安全な保管条件】

直射日光と高温多湿を避けて保管する。
涼しく換気の良いところで保管する。
子供の手の届かないところに保管する。

【安全な容器包装材料】

外装：段ボール箱
内装：ポリ袋

8. ばく露防止及び保護措置

許容濃度

日本産業衛生学会

第二種粉塵（含む酸化チタン、酸化鉄、カーボンブラック）
吸引性粉塵 : 1mg/m³（2020年版）
総粉塵 : 4mg/m³（2020年版）
ピグメントブルー15 : 8mg/m³（第三種粉塵・2020年度版）

ACGIH

酸化チタンIV : TLV-TWA 0.025mg/m³（2006年版）
カーボンブラック : 3.5mg/m³

設備対策

施工時は窓を開放するなどの換気を行う。

保護具

呼吸器用保護具
手の保護具
眼の保護具
皮膚及び身体の保護具

保護マスク
ゴム手袋
保護メガネ
長袖の作業服、帽子、長靴等

9. 物理的及び化学的性質

物理状態

液体

色

銘柄により異なる

臭い

なし

沸点又は初留点及び沸騰範囲

データなし

可燃性

データなし

爆発下限界及び爆発上限界/可燃限界

データなし

引火点

データなし

自然発火点

データなし

分解温度

データなし

pH

7.5~10

動粘性率

データなし

蒸気圧

データなし

密度及び/又は相対密度

データなし

相対ガス密度

データなし

粒子特性

データなし

その他の情報

データなし

10. 安定性及び反応性

反応性	通常の取り扱い条件においては安定
化学的安定性	通常の取り扱い条件においては安定
危険有害反応可能性	知見無し
避けるべき条件	高温、直射日光。
混触危険物質	知見無し。
危険有害な分解生成物	知見無し。

11. 有害性情報

急性毒性	混合物として分類できない。
皮膚腐食性/刺激性	混合物として区分2。 ※原料として含まれる酸化鉄が区分1に分類される。
眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性	混合物として区分1。 ※原料として含まれる酸化鉄が区分1に分類される。
呼吸器感作性または皮膚感作性	混合物として分類できない。
生殖細胞変異原性	混合物として分類できない。
発がん性	混合物として区分2。 ※原料に含まれる酸化チタン、酸化鉄が区分2に分類される。
生殖毒性	混合物として分類できない。
特定標的臓器毒性（単回ばく露）	混合物として区分2。 ※原料に含まれる分散剤（非開示）が血液、中枢神経系に対し区分2に分類される。
特定標的臓器毒性（反復ばく露）	混合物として呼吸器、腎臓に対し区分1。 血液、中枢神経系に対し区分2。 ※原料に含まれる酸化鉄が呼吸器、腎臓に対し区分1に分類される。 ※原料に含まれるカーボンブラックが呼吸器に対し区分1に分類される。 ※原料に含まれる分散剤（非開示）が血液、中枢神経系に対し区分2に分類される。
誤えん有害性	混合物として分類できない。

12. 環境影響情報	
生態毒性	混合物として知見無し。
残留性・分解性	混合物として知見なし。
生体蓄積性	混合物として知見なし。
土壤中の移動性	混合物として知見なし。
オゾン層への有害性	混合物として知見なし。

13. 廃棄上の注意

【残余廃棄物】	残余廃棄物は「廃棄物の処理及び掃除の方法に関する法律」に基づき廃棄する。
【汚染容器及び包装】	汚染容器/包装は「廃棄物の処理及び掃除の方法に関する法律」に従って処理を行うか、許可を受けた産業廃棄物処理業者に処理を委託する。 空の容器は、リサイクルまたは廃棄のために、承認された廃棄物処理施設に運ばなければならない。

14. 輸送上の注意

国際規制	
国連番号	なし
品名(国連輸送名)	なし
国連分類	なし
容器等級	なし
国内規制	なし
陸上規制情報	非該当
海上規制情報	非該当
航空規制情報	非該当

15. 適用法令

【化学物質排出把握管理促進法】	非該当
【労働安全衛生法】	第57条の2 第1項通知対象物 ・酸化チタン、酸化鉄、カーボンブラック、銅及びその化合物
【毒物及び劇物取締法】	非該当
【水質汚濁防止法】	第3条の3 指定物質 52 鉄及びその化合物 53 銅及びその化合物

16. その他の情報

引用文献等	JIS7252 : 2019 JIS7253 : 2019
-------	----------------------------------

その他文献から得られた情報

記載内容の取り扱い

本SDSは最新の知見に基づき十分な注意を払って作成したのですが、全ての情報を網羅しているものではありませんので、取扱いには十分注意するようにお願いします。記載された内容は一般的な取扱いの場合を想定しておりますので、特殊な使用方法の場合には、その用途・用法に適した安全対策を実施してください。なお、記載されたデータは保証値を示すものではありません。

以上